

●大会委員会企画テーマセッション(80分)

「新型コロナウィルスの影響に関する緊急調査 一個人編一」

研究成果報告形式

◎江夏 幾多郎 (神戸大学 経済経営研究所 准教授)

神吉 直人 (追手門学院大学 経営学部 准教授)

高尾 義明 (東京都立大学大学院 経営学研究科 教授)

服部 泰宏 (神戸大学大学院 経営学研究科 准教授)

麓 仁美 (松山大学 経営学部 准教授)

矢寺 顯行 (大阪産業大学 経営学部 准教授)

[概要]

10月18日(日) 9:30~10:50 D会場

本報告の目的は、新型コロナウィルス感染症の流行に対して、組織や個人がどのような対応をしており、そのことが、個人の就労上の心理や行動にどのような影響を及ぼしているのか、ということを経験的に検討することにある。2020年4月14日から16日にかけて、経営学研究者6名と株式会社リクルートワーク研究所の共同により、日本の就労者4363名を対象として実施した大規模なアンケート調査の分析結果を報告する。すでに速報として発表されている研究成果(江夏他, 2020a; 2020b)の中から、特に重要な発見事実、また速報の中に盛り込めなかった結果を抜粋し、日本の産業社会で何が起こっているのかということを議論したい。

[参加者へのメッセージ]

新型コロナウィルス感染症の流行下の日本の就労者の状況を理解し、社会に向けて発信するという、やや特殊な研究実践について話題提供いたします。そのため、「先行研究レビュー→調査方法の報告→高度な推測手法による分析結果の提示」と進む通常の研究発表とは少し違ったスタイルになります。例えば、記述統計の結果を丁寧に咀嚼・議論する、新型コロナウィルス感染症のような社会問題に対して経営学者に何ができるのかを参加者の皆さんと考える、といったことをしてみたいと思います。是非ご参加ください。